

小学校

資料名「ありがとうのわ」(出典:「大切なこころ」を見つめ直して)

◆実践校名 守口市立佐太小学校 枚方市立高陵小学校 寝屋川市立西小学校

寝屋川市立明和小学校 門真市立門真みらい小学校

◆主題名 きもちを伝える「ありがとう」 道徳の内容 B 感謝

◆ねらい 日ごろから多くの人に支えられていることに気づき、感謝の気持ちを感じると共にその気持ちを素直に相手に伝えようとする態度を育てる。

◎中心的な発問 どんなときに「ありがとう」って言おうと思いますか。

◆本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎ 「_____のわ」の あいているところに入る 言葉を考える。	今日読むのは「_____のわ」です。あ いているところにはなんという言葉が入 るでしょうか。 ヒントは、言われて嬉しい言葉です。 ・かっこいいね ・やさしいね ・ありが とう	・隣同士で伝えあう時間をとる。 どの意見も、それぞれが言われて 嬉しい言葉であると認める。
展開	◎資料を読む。 ◎ゆきさんが「ありが とう」と言ったときの気持ち を考える。 ◎「ありがとう」と言われ た側の気持ちも考える。 ◎ゆきさんが「ありが とう」と言わなかったら、相 手はどう思うか考える。	・それぞれの場面を児童が演じる。 ゆきさんが、おねえさんや運転手さん、し ょうたくんに「ありがとう」と言ったのは どうしてでしょう？ ・くつを出してくれたから。 ・車が止まってくれたから。など 「ありがとう」と言われた人はどんな気持 ちでしょう。それはどうしてですか。 ・いい気持ち。 ・お礼を言われるとやってよかったと思うから。 ・ゆきさんが「ありがとう」と言わない場面も演 じる。 「ありがとう」と言われなくて、どんな気 持ちになりましたか？ ・せっかく出してあげたのにお礼くらい言ってほ しい。 ・急いでるのに止まってあげて損した。	・範読する。 ・一場面を選んで役割を決め、ペ アで演じるよう促す。ゆきさんの 役と「ありがとう」と言われる側 の役と、交替して両方やるように する。 ・前でもやってもらおう。 ・ワークシートを用意する。 ・吹き出しに気持ちを書けるよう にする。言葉にするのが難しい場 合は、気持ちのイラストを選ぶよ うにする。 <評価> ありがとうを言ったり言われた り、言われなかったりしたときの 気持ちを考えて書けたか。 (評価方法) ワークシートの書き込み

		<ul style="list-style-type: none"> ・次からもう場所ゆずらんとこかな。 ・無視されてむかつく。 	
終 末	<p>◎「ありがとう」と伝えたい人にどのように伝えるか考える。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どんなときに「ありがとう」って言おうと思いますか。 (だれに伝えたいかも思い浮かべましょう。)</p> </div>	<p>○具体的な人を思い浮かべること とで、自分が「ありがとう」と実際に伝える動機とする。</p> <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ありがとう」と伝えたい相手を具体的に思い浮かべて行動にうつそうとしているか。 ・(今後の生活で)「ありがとう」と伝えられているか。 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの書き込み・発言・(今後の生活での)行動 <p><評価をいかした支援></p> <p>具体的に思い浮かばなかった児童には、日常的に「～してもらえてうれしいね」「ありがとうって言ってもらえたね」など、感謝の気持ちが意識できるような声かけをしていく。</p>

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

- ・「ありがとう」と伝えることの強制になってはいけない。子どもたちの内面や心情に訴えかけて、なぜ感謝の気持ちを伝えるといいのか考えさせることが大切である。また、子どもたちにそれを考えさせられるように発問を工夫することが必要である。
- ・「ありがとう」という言葉だけではなく、感謝の気持ちを伝える言葉や方法が他にもないか考えることも有効である。
- ・題名『ありがとうのわ』の意味についても考えることで、感謝の気持ちを相手に伝えると、“感謝の気持ち”を広げていくことにもなるなど、さらに子どもたちの思考を深めていける。
- ・字を書くことに支援が必要な児童については、登場人物の気持ちを絵文字などで表現する方法もある。
- ・授業の中で、ありがとうがないときの気持ちについては、考えさせる必要はなかったのではないかな。

○道徳の評価についての提言

道徳の評価を ①自分の考えを深められたか ②主題について考えることができたか ③その後の言葉や行動 で評価をする。

●①②を評価するための手段としてワークシートを利用する。

- ・花びらワークシートを使う。中心発問についての自分の考えを花びらに書いていく。友達の見解でいいなと思ったことは赤で花びらに書いていく。友達の見解もふまえて、最後に真ん中に自分の考えを書く。

初めの自分の意見が友達との意見交流で深められ、どう変わるかを見る。考えの広がりが見て取れる。

単元ごとに評価をし、道徳ファイルで保管する。6年間でどう成長するかを見るのも大切。

●③授業後の、普段の生活の言葉や行動を見る。書くことができない子や苦手な子も言葉や行動を見て評価する。

【各校での実践記録】

◆実施学年（2・3年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

ロールプレイ

- ・「ありがとう」のあるとき、ないときをそれぞれ演じた。ないときに「なんやねんっ！」と怒っている場面があった。

中心発問でのワークシート記述

- ・家族や友だちなど、身近な人への感謝の気持ちが持てていることがわかった。中には、給食を作ってくれている人など、社会的に支えてくれている人への感謝を書いている児童もいた。発表する時間があまりとれず、共有しきれなかったのが課題。
- ・一方で、何も書いていない児童も何人かいた。普段から家庭環境やコミュニケーションにおいて配慮の必要な児童でもあるので、今後こまやかな見守りと声かけが必要である。

○成果と課題

- ・ロールプレイで、ありがとうのないときを演じたために、ありがとうと言う側の気持ちに迫りにくかった。
- ・ワークシートに表情をかきスペースを設けたので、言葉で表現しにくくても絵として表現できた児童がいた。

◆実施学年（2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

「ありがとうのわ」

発問1「ありがとうと言ったのはどうしてでしょう。」

発問2「ありがとうと言われた人はどんな気持ちでしょう。」

発問3「ありがとうと言われなかったらどんな気持ちになるでしょう。」

- ・発問1，2，3に対して、気持ちも表情も考えることができた児童がほとんどだったが、普段から気持ちを考えるのが苦手な児童は、気持ちが書けなかった。しかし表情は描くことができた。表情は、4つから選ぶようにしたので、絵の苦手な児童も戸惑うことなく描くことができた。

中心発問「どんな時にありがとうと言おうと思いますか。」

「誰に言いたいですか。」

- ・できれば「物を買ってもらった時」や「物をもらった時」ではなく、お金や物が関係ない状況を考えさせたい。
- ・誰に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたいか、実際に思い浮かべる際は、「お父さん」や「お母さん」のように具体的に思い浮かべることができればよい。
- ・授業の後は、実際に「ありがとう」と言えたら「ありがとうの木」に実をつけようという取り組みをした。たくさんの児童が授業の後に感謝の気持ちを伝えたようで、すぐに実でいっぱいになった。

○成果と課題

- ・評価を位置づけて実践したので、どの場面でどういう発言に注目すればいいか明確だったので授業を進めやすかった。
- ・教師によって評価が変わることもあるのではないか。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

ワークシート、掲示物（ありがとうの木）

◆参考資料

ワークシート、板書写真、掲示物写真、授業記録

実践校名（寝屋川市立西小学校）

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

◎授業中の児童の発言やワークシートへの記述から

- ・ ありがとうという言葉があると相手はどのような気持ちになるか考える場面で、「座る場所をあけてあげて良かった。」「お礼を言われると嬉しい。」というような反応が多く、感謝の気持ちを伝えると相手も気持ちがいいという考えを持っている児童が多かった。
- ・ 反対にありがとうという言葉がないと相手はどのような気持ちになるか考える場面では、「せっかく座る場所をあけてあげたのに、残念だ。」「嫌な気持ちがする。」のように、ありがとうを言わないことが悪いことのように感じさせるような発問になってしまったと感じている。

◎「どんなときにありがとうと言おうと思いますか。」という中心発問に対する児童の反応について

- ・ 「友だちが何か一緒にものを探してくれた時」や「お母さんに毎日ご飯を作ってくれてありがとう。」という、と考えた児童が多かった。このように、ありがとうという感謝の言葉を誰かに伝ようと考えている児童は多かったが、色々な意見や考えを出すことができなかった。

○成果と課題

- ・ 子どもたちの授業中のつぶやきや、ワークシートへの記述から評価しようと考えたとき、なかなか自分の気持ちを伝えられない児童や、教師が思うことと反対の事をわざと言おうとする児童に対しては、どの様に評価をしていけばよいのかという事を考えていく必要がある。